

## 第3学年体育科学学習指導案

日時 平成24年11月1日(木) 4校時  
児童 3年3組 男20名 女14名 計34名  
指導者 宮本 真紀

### 研究課題

自ら考えたり工夫したりしながら、運動の楽しさを味わうことができる子どもの育成

### 研究課題について(設定理由)

学級の児童の多くは、体育の学習に対して興味・関心が高く、勝敗を素直に受け入れたりきまりを守ったりしながら、仲よく意欲的に学習に取り組むことができる。

中学年では、運動量を確保しながらこれまでの基礎的な運動感覚・動きづくりをさらに充実させ、思考力・判断力については、運動のポイントに気付き、運動技能を高めていくことができるようにするための入門期である。

そこで、第3学年では運動のポイントを知り、自分の力に合った場を選んで運動技能を身に付けることができるようにさせたい。

そのために、学び合いの場を焦点化し、運動のポイントを理解させた上で、自分の運動技能を高めるためにはどうすればよいかを自ら考えさせたり練習の場を選ばせたりしながら学習を進めることにより、自分の運動技能の高まりに気付き、運動の楽しさを味わうことができると考え、本研究課題を設定した。

### 1 単元名 自分で選んでステップアップ！(B 器械運動 ウ跳び箱運動)

### 2 単元について

#### (1) 児童観

児童は、これまで器械・器具を使つての運動遊びで、跳び箱では跳び乗りや跳び下り、馬跳び、マットでは、ゆりかごや前転がりなどいろいろな方向へ転がったり、手や背中で支持しての逆立ちをしたりする学習している。また、3年生でのマット運動で、基本的な回転技を中心に学習してきた。児童の様子から、することの楽しさや様々な動きができることの喜びを感じている。しかし、中には逆さ感覚に対する不安などから苦手意識をもっている児童も数名いる。学び合いにおいては話し合いの中で運動のポイントに気付くために、分解図の中からポイントにつながる視点を提示し、練習を進めている。

そこで、本単元では、児童に跳び箱を使って跳ぶことや回転することの楽しさを実感させることができるようにするため、運動のポイントや練習の仕方を知り、様々な場を設定することで自分の力に合った練習の場を選択して学習することができるようにし、主体的に学習に臨ませる。

#### (2) 教材観

「B 器械運動」は「マット運動」と「鉄棒運動」と「跳び箱運動」に分類されている。「跳び箱運動」では、基本的な支持飛び越し技(切り返し系、回転系)に取り組み、それぞれについて自分の能力に適した技ができることをねらいとして行う運動である。本単元は、これらのねらいを達成するために、開脚跳びと台上前転を扱う。

器械運動は、技ができるようになったり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさを味わうことができる。主運動に類似した易しい運動を取り入れたり、スモールステップで取り組んだりしながら自分の伸びを実感させることや、運動のポイントを知り、そのポイントを意識して自分の力に合った練習の場を選択させることを通して、全ての児童が運動の楽しさや喜びに触れることができる内容であると言える。

(3) 指導観

研究課題である「自ら考えたり工夫したりしながら、運動の楽しさを味わうことができる子どもの育成」を目指し、以下のような手立てを講じていく。

① 考えさせたい運動のポイントを絞った単元指導計画の立案

	開脚跳びのポイント	台上前転のポイント
3年生	腕支持と突き放し	腕支持と腰を上げての前転
4年生	しっかり踏み切って 大きな開脚跳び	しっかり踏み切って 大きな台上前転

- ② 類似運動を位置付けた指導過程の工夫
- ③ 学び合いの場の焦点化
- ④ スモールステップの場の設定
- ⑤ 運動技能の変容を振り返る自己評価

3 単元の目標

態度	運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動しようとしている。 仲間と協力して安全に気を付けながら、準備や後片付けをしようとしている。
思考・判断	自分の力に合った課題をもち、技ができるようにするための活動を選んでいる。
技能	自分の力に合った技に取り組み、その技ができる。

4 指導計画

1	2	3 (本時)	4	5	6	7	8
オリエンテーション  ○学習のねらい ○学習の進め方・約束 ○準備・片付けの仕方 ○準備運動の仕方 ○試しの運動	○主運動につながる類似運動			○主運動につながる類似運動			まとめ  ステップ アップ 発表会
	○運動の ポイントに気 付く。	○開脚跳びのポイント がわかる。 「腕支持と突き放し」 ○運動のポイントを 練習する。 ○場を選択して練習す る。		○運動の ポイントに気 付く。	○台上前転のポイント がわかる。 「腕支持と腰を上げて の前転」 ○運動のポイントを 練習する。 ○場を選択して練習す る。		
学習の振り返り 後片付け							

5 本時の目標

(1) 目標

(思考・判断) 開脚跳びのポイントがわかり、自分の力に合った練習の場を選択している。

(2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価	場・用具
10分	<p>1 場づくり</p> <p>2 準備運動</p> <p>3 基礎感覚作り (類似運動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんすごろく</li> </ul> <p>(うさぎ跳び, 連結跳び箱ロケット, 手押し車, あざらし歩き, かえる倒立)</p> <p>4 学習課題の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力し, 安全に素早く準備ができるように声かけをする。</li> <li>・主運動にかかわる部位を中心にほぐす。</li> <li>・開脚跳びにつながる腕支持感覚を養うための類似運動を行う。</li> <li>・いい動きをしている児童を称揚したり, 励ましたりする。</li> <li>・本時の運動内容を伝え, 運動への意欲を高める。</li> </ul>	コーン マット 跳び箱
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">開脚跳びで遠くへ着地するポイントを考えよう。</div>		
28分	<p>5 開脚跳びの練習 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの練習 (生活班)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">運動のポイントを思考する場</div> <p>6 ポイントの学び合いと共有</p> <p>7 開脚跳びの練習 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場を選択しての練習</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">運動のポイントである突き放しを意識して練習する場</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに, お互いの動きを見合いながら, 遠くに跳ぶためのポイントを探させる。</li> <li>・遠くに着地するためにはどんなことに気を付ければよいかを考えさせることで, 運動のポイントに気付かせる。</li> <li>・児童から出された運動のポイントの中から, 「突き放しの動き」に注目させる。</li> <li>・動きのいい児童に演じさせ, 腕を支点とした体重移動と突き放しによって体が投げ出される動きがポイントになることに気付かせる。</li> <li>・練習 (1) で共有した突き放しを意識させながら自分の力に合った場で練習させる。</li> <li>・突き放すタイミングが分からない児童には, 補助をしたり, 友達同士でかけ声をかけさせたりする。</li> </ul> <p>◇ 開脚跳びのポイントがわかり, 自分の力に合った練習の場を選んでいる。 (観察・カード)</p>	<p>マット</p> <p>跳び箱</p> <p>ロイター板</p> <p>分解図</p> <p>移動黒板</p> <p>ゴム</p> <p>ソフト跳び箱</p>
7分	<p>8 学習の振り返り</p> <p>9 後片付け</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開脚跳びをするときに気を付けたことや, 友達から教えてもらったことを発表させる。</li> <li>・友達と協力し, 安全に素早く準備ができるように声かけをする。</li> </ul>	